

[付 録]

# 小学校長の教育観



放送大学教授

深谷 昌志

## 調査概要

- |         |  |         |                                  |
|---------|--|---------|----------------------------------|
| 1. 調査主題 | 小学校長の教育観   | 4. 調査時期 | 昭和62年2月                          |
| 2. 調査視点 | 教職一筋にたずさわり学校経営を行っている側の小学校長先生方の教育観と教職についての考え方を探る。                           | 5. 調査対象 | 小学校の校長先生                         |
| 3. 調査項目 | コミュニケーションについて/子どもたちが先生に望んでいるであろうこと/教育について/子どもたちに身につけてほしいもの/視の学校への印象/教職について | 6. 調査方法 | 小学校へ質問紙を郵送                       |
|         |  | 7. サンプル | 全国の小学校より10分の1抽出で2,500校を選び、調査票を送付 |
|         |  | 有効サンプル  | 446通                             |
|         |  | 回収率     | 18%                              |

## 要 約

### ① 校長先生のプロフィール

50歳の時に教頭になり、55歳で校長、現在は57歳というのが、校長先生の平均値である(図1)。

### ② 人生をやり直せたら

人生をやり直せたら、再び教職につきたいという方が、6割に達する。教職一途に36年という感じである(表5)。

### ③ 学校の機能

校長先生方は学校を通して、学力はむろんのこと、友だちとつきあう態度や体力も育てられると思っている(図5、表7)。

### ④ 学校への評価

校長先生方は、親は学校に満足していると思っている。しかし、実際はそれは校長先生方の思いこみで、親たちはもっとクールに学校をみつめているようだ(図6、表9)。

### ⑤ 塾通いの背景

親たちは学校に対する不信をあらわにしている。しかし、校長先生はそうした親たちの悩みにあまり気づいていないようだ(図7、表11)。

### ⑥ 自分の学校の先生をみて

子どもの遊び相手になることは少ないかもしれないが、まじめに授業に取り組んでいるように思う(図8)。

### ⑦ 教師はどう感じているか

「忙しすぎて、子どもと接する時間がない」と多くの教師は思っているだろう、という考えの校長先生が多かった(図9)。

⑧ 教師として一人前になるには

教師として格好がつくには4～5年、一人前になるには10年近い年月が必要だろうと校長先生方は思っている(表13、表14)。

⑨ 教職の現状と未来

現在教師とは専門職を目指しているセミ専門職であろうが、将来は専門職としての地位を確立した専門職であってほしいと校長先生方は思っている(図10、表15)。

⑩ 専門職への道

校長先生方は授業の仕方を研究し、教材研究を深めることが、専門職化への道だという(表16)。

全体として

教職一途に36年というキャリアを反映して、さすがに教育についての見方は納得できるものが多く、また専門職化が教職の理想像というのも共感できる。しかし、母親たちの学校観との間に溝が認められる。教育のプロであり、そして、学校経営に責任をもつ立場であるためか、一般社会の人たちの感じ方がわかりにくくなったのであろうか。校長先生としての努力が親たちの間に伝わっていない印象を受ける。これからの校長先生には、学校内での教師の掌握と同時に、親たちの理解を得るための努力が求められるのであろう。



# 1. 校長先生としてのキャリア

これまで『モノグラフ・小学生ナウ』では、何回か全国調査を実施してきた。掃除や運動会、修学旅行、卒業式が、その具体例となる。

そして、通知表についても、前号につづいて全国の学校に依頼して、通知表を集めてみたいと思った。

この機会に、校長先生から、教育についての考えを聞かせていただきたいと思い、巻末に掲げた調査票を添付して、協力を求めた。その結果、446通の回答をもらうことができた。

こうした校長先生方の教育観を紹介する前に、回答からいただいた校長先生方のプロフィールを紹介しておこう。

校長先生としてのキャリアは図1の通りで、50歳で教頭になり、それから4年8か月後の54歳8か月で校長に就任している。そして、教職経験が36年を超えたベテランというのが、平均のプロフィールとなる。

57歳といえば、新制大学1～2回生の方たちであろう。当然、民主教育がはなやかな頃に、学生として生活を送り、師範学校の香りの残る学芸大学の門を巣立ち、勤務評定や学力テストなどの運動に身を置いてきた、いわば新教育の中から育ってきた方たちである。

教頭、そして校長になった時の年齢構成は、表1～2にくわしいが、それぞれの校長先生が専門としているのは、理科、社会がそれぞれ2

図1 校長としてのキャリア

—55歳で校長に—

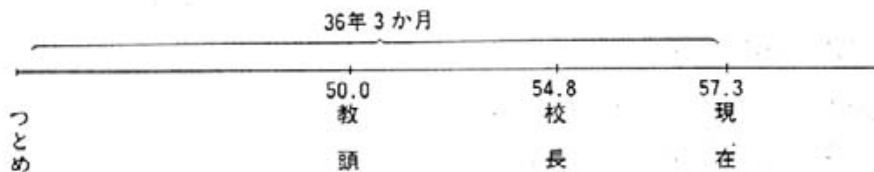


表1 教頭になった年齢

(%)

年 齢	割 合
40～46歳	15.3
47～48歳	27.8
49～50歳	26.7
51～52歳	22.7
53～56歳	7.5

表2 校長になった年齢

(%)

年 齢	割 合
41～51歳	12.1
52～53歳	19.7
54歳	12.1
55歳	26.3
56歳	19.5
57歳～	10.3

割のように、さすがに教科を専門と考えている方が多く、学校経営を専門にしている方は7.5%、生活指導2.7%、特活3.2%にとどまっていた(図2)。

教職についてから30年が過ぎ、ほどなく停年を迎えようとしている方たちで、文字通り戦後の教育を支えてきたのであろうが、教職についての気持ちは表3が示すように、積極的に教師になった方が「とても」の22%に「か

なり」の35%を含めると57%と6割に達する。

昭和20年代後半につとめがなくてというのではなく、自分から教師を志したらしい。それだけに、「教職をやめたいと思ったことはあるか」の問いに、「1回もない」が44%で4割を超え、「1～2回あった」の37%を加えると、81%がやめようと思ったく、あるいはほとんど思わないという計算になる(表4)。若い時に選んだ道を後悔していないのである

図2 専門としているもの

—理・社が2割ずつ—

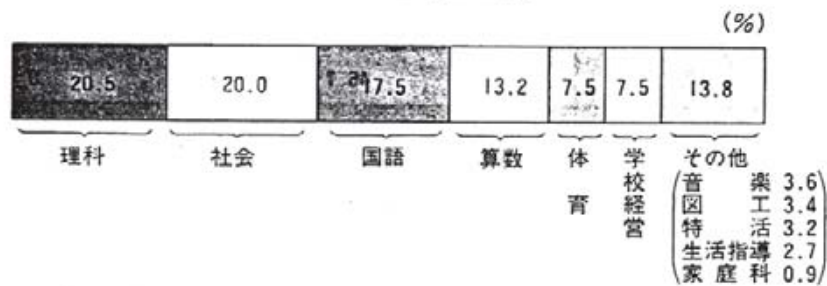


表3 教職についての気持ち

—はじめからなるつもりが8割—

(%)

		積 極 的			ふ っ っ	消 極 的		
		と っ っ	か な り	や や		や や	か な り	と っ っ
全 体		22.0	35.3	20.0	16.7	3.6	2.4	0
専 門	国 語	16.9	45.4	18.2	11.7	3.9	3.9	0
	算 数	25.9	29.3	24.1	13.8	5.2	1.7	0
	理 科	19.3	31.8	21.6	23.9	2.3	1.1	0
	社 会	18.2	38.7	17.0	19.3	3.4	3.4	0
年 齢	～54歳	24.0	30.2	24.8	16.3	3.9	0.8	0
	55～56歳	21.3	37.9	13.9	19.4	5.6	1.9	0
	57～58歳	22.8	37.3	17.9	14.6	4.1	3.3	0
	59歳～	19.1	37.0	22.5	16.9	0	4.5	0

から、やはりしあわせな人生を歩んできたというべきなのであろう。

さらに、「人生をやり直せたら、教師になるか」についても表5のように、「つきたい」が6割に達している。そして表6によれば、

積極的に教師になった方は、もう一度教師になってもよいと答えている。なんとなく教職一途に30年、そしてそうした人生に誇りをもっているという感じで、いかにも、ベテランの教師らしい反応である。

表4 教職をやめたいと思ったこと

(%)

調査対象		一回もなかった	1回あった	2回あった	3回あった	いつもそう思っている
全(設)体		44.0	37.3	17.4	1.3	
専 門 学 科 A.E.T.S.P.O.	国語	39.0	46.7	14.3	0	
	算数	50.0	32.8	17.2	0	
	理科	48.4	33.7	15.7	2.2	
	社会	38.6	41.0	19.3	1.1	
年 齢	54歳	45.8	35.1	17.6	1.5	
	55-56歳	39.5	43.1	15.6	1.8	
	57-58歳	39.0	40.7	20.3	0	
	59歳	52.9	29.2	15.7	2.2	

表5 人生をやり直せたら

—積極的につきたいが6割—

(%)

せひつきたい		ややつきたい	なんともいえない	せんとつきたくない		
せひ	かなり			やや	あまり	ぜんぜん
29.4	30.0	8.4	25.4	2.4	2.9	1.5
59.4				6.8		

表6 人生をやり直せたら×教職へのつき方

—つきたかった人はもう一度やってもよい—

(%)

		この教職についたときの気持ち					
		積極的			ふつう	消極的	
		とても	かなり	やや		やや	かなり
人生をやり直せたら	せひつきたい	42.3	30.3	11.4	12.9	0.8	2.3
	かなりつきたい	15.6	46.6	22.2	14.1	0	1.5
	ややつきたい	8.1	24.3	48.7	8.1	10.8	0
	なんともいえない	13.1	32.5	18.6	24.1	7.6	4.1

## 2. 校長先生方の教育観

それでは、校長先生方は教育の営みをどう考えているのであろうか。

校長先生のふだんの生活は図3の通りで、教頭や教務主任を含めて、教師との意志の疎通に半数の時間を費している。そして、校長先生として、教育委員会や地元との接触到にそれほど苦勞していないともいう(図4)。

もちろん図3～4の結果が得られたからといって、校長先生が気楽なはずもないが、校長先生方は、学校の機能について図5(表7)のように答えている。ここでは念のために『モノグラフ・小学生ナウ』vol.4-12(お母さんの教育観)で、学校の機能をたずねているので、その結果を校長先生の反応と対比させて

図3 時間の使い方

——教師とのふれあいが半数——

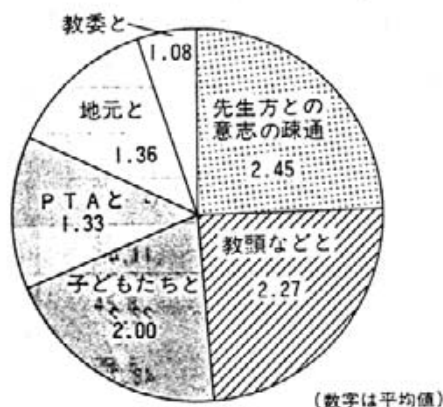
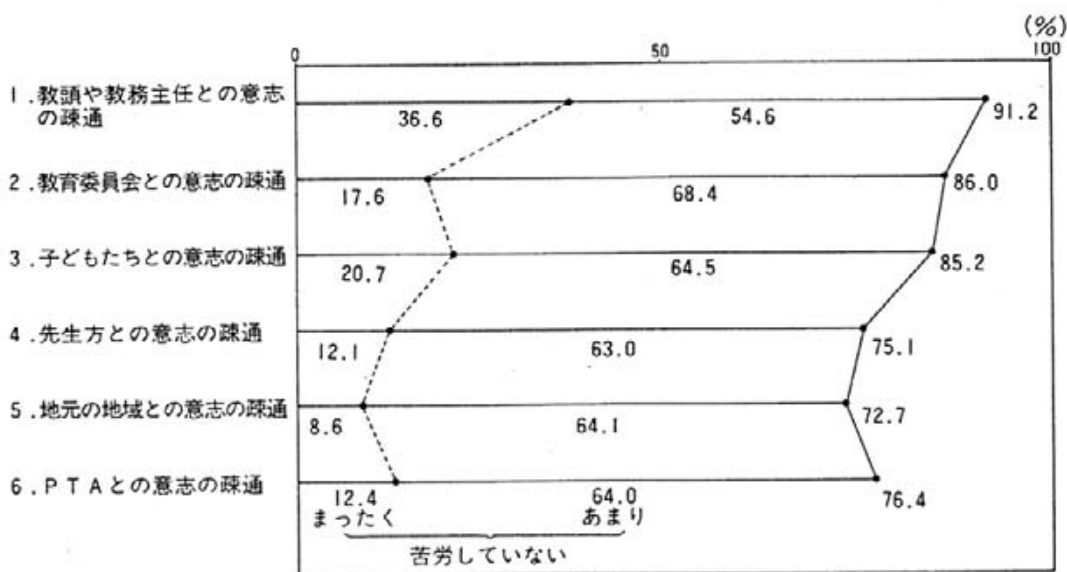


図4 校長としてのコミュニケーション

——それほど苦勞していない——





示してある。

校長先生は、学校の責任者であるから当然といえばそれまでだが、校長先生方は、学校を通してさまざまな力を身につけられると信じており、学校の力に多少の疑問を抱く母親たちと微妙な開きが認められるようだ。

そして、表7の結果を裏づけるかのように、学力や体力をどこで身につけたらよいかについて、校長先生方は表8の通り、生活習慣は家庭で身につけてほしい。しかし、学力はむしろのこと体力や情操も、学校を通して身につけるのが望ましいという。

こうみてくると、予想される以上に校長先生方が学校の現在に自信をもっているのがわかる。そうはいっても、親たちはもっとクールに学校を批判的に見つめている。もちろん、親たちと話していると、親のエゴを感じることも少なくない。しかし、そうした反面、学校が親の気持ちをとらえていないと思うことも多い。

そうした懸念が的はずれではない証拠が、図6(表9)となる。校長先生方は、親たちが学校にかなり満足していると思っている。しかし残念ながら、それは正しい認識でなく、

実際の親たちが学校に満足していないのは、図中の数値の示す通りである。

校長先生になると、職務上校長室にいることが多く、校長としての立場でものを見がちであるし、発言も慎重にならざるを得ない。そうしたむずかしい立場はわかるのだが、校長先生としての日々を過ごすうちに、親たちの心のうちが読めなくなったのであろうか。

なお、校長先生の勉強観は表10にくわしい。「成績の良し悪しは予・復習の努力に比例する」に対して、64%の母親たちはそう信じている。それに反し、校長先生がそう思う割合は48%にとどまっている。

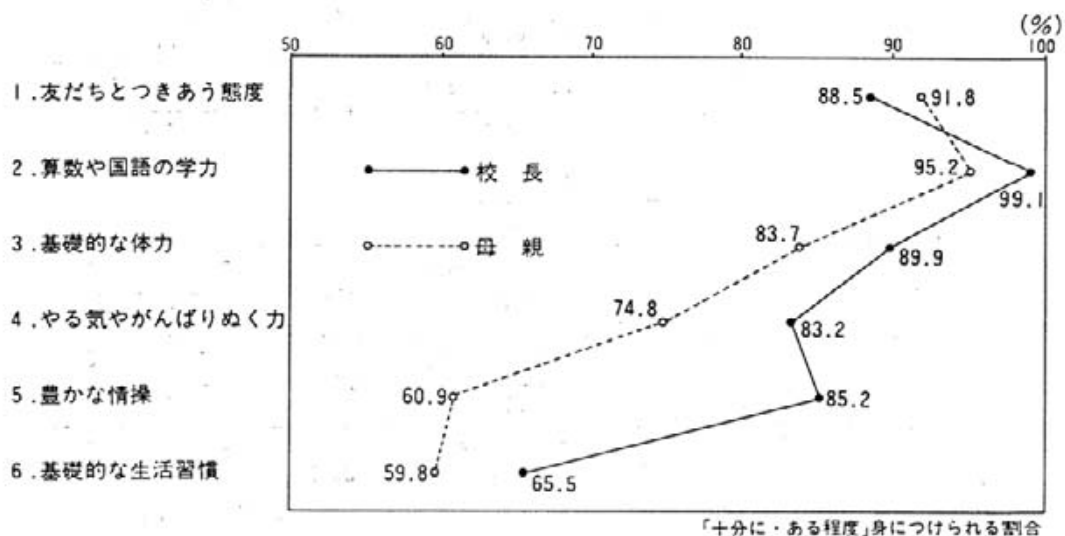
校長先生方が一生懸命に教育に打ちこんでいるのはよくわかる。しかし、残念ながら校長先生は、親たちの心をあまりつかんでいないようで、そうした親とのギャップは、塾通いの理由をたずねた図7(表11)にも表れている。

つまり、親たちは「学校ではわかるまで教えてくれない」「学校では個性を伸ばせない」と思っているのに対し、校長先生方はそうした傾向を認めていないようだ。

こうみてくると、校長先生方の教育につい

図5 学校の機能(母親との対比)

—学校は役立っているはず—



での見方が決して間違っているとは思わないが、しかし、校長先生としての見方が強いゆえか、親たちの学校批判に気づいていない。それだけに、学校としてはがんばっているつもりという校長先生の教育観に、一面の真理が含まれているように、もう少し踏みこんで、

客観的に学校をとらえる見方がほしい気持ちがある。

なお、一流大学卒の値打ちについては、「やや下がる」を予想しており、これはおおむね妥当な見方のように考えられよう(表12)。

表7 学校を通して身につけられるか(母親との対比)

—ある程度身につけられる—

(%)

項目	対比	身につけられる方		なんとも いえない	身につけられない	
		十分に	ある程度		あまり	ぜんぜん
友だちとつきあう 態度	校長	15.3	73.2	11.1	0.4	0
	母親	35.6	56.2		1.9	0.3
		88.5		0.4		
算数や国語の学力	校長	45.6	53.5	0.7	0.2	0
	母親	33.1	62.1		0.9	0.1
		99.1		0.2		
基礎的な体力	校長	16.8	73.1	8.8	1.3	0
	母親	16.6	67.1		3.6	0.4
		89.9		1.3		
やる気やがんばり	校長	11.9	71.3	14.4	2.4	0
	母親	12.1	62.7		6.4	0.9
		83.2		2.4		
豊かな情操	校長	8.2	77.0	12.4	2.4	0
	母親	6.6	54.3		12.1	1.1
		85.2		2.4		
基礎的な生活習慣	校長	3.5	62.0	24.1	10.4	0
	母親	5.5	54.3		18.4	1.5
		65.5		10.4		
		59.8		19.9		

○=最大値

表8 どこで身につけたらよいか

—生活習慣以外は学校で—

	① 学 校	② 家 庭	③ 学 習 塾 や お け い こ	④ 地 域 ・ 社 会 の 中 で
記入例 (a)	10	0	0	0
記入例 (b)	7	1	2	0
1) 算数や国語の学力	9.0	0.6	0.3	0.1
2) 基礎的な体力	6.0	2.8	0.1	1.1
3) 豊かな情操	5.0	4.1	0.1	0.8
4) 基礎的な生活習慣	3.5	5.6	0.1	0.8
5) やる気やがんばりぬく力	4.7	4.0	0.2	1.1
6) 友だちとつきあう態度	4.9	3.2	0.2	1.7

(図中の数値は全体を10.0とした時の割合)

図6 学校への満足度(母親との対比)

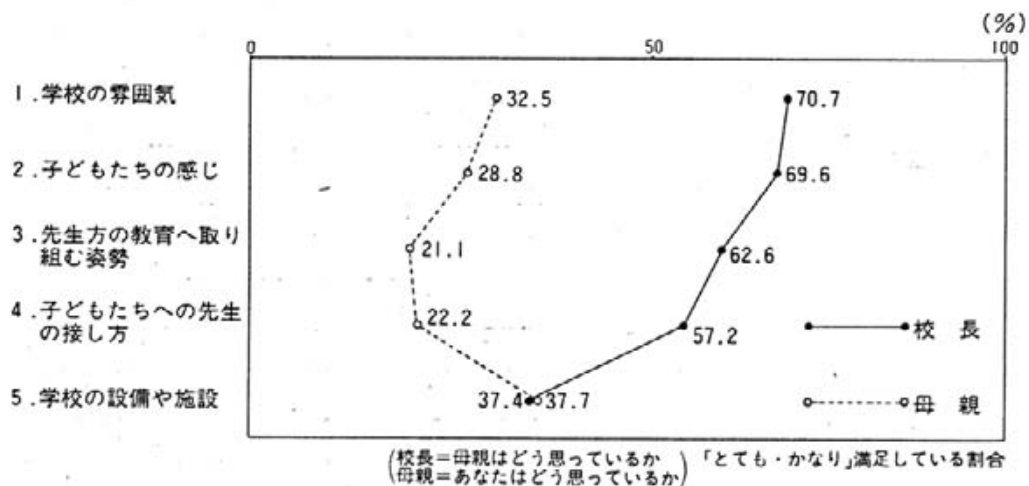


表9 学校への満足度(両親との対比)

(%)

		満足している		やや満足している	満足していない	
		とても	かなり		あまり	ぜんぜん
学校の設備や施設	校長	7.2	30.2	34.9	25.7	2.0
		37.4			27.7	
	父親	9.6	30.3	47.8	10.7	1.6
		39.9			12.3	
	母親	9.5	28.2	47.4	12.3	2.6
		37.7			14.9	
学校の雰囲気	校長	7.8	62.9	26.8	2.5	0
		70.7			2.5	
	父親	5.8	24.5	56.5	11.9	1.3
		30.3			13.2	
	母親	6.7	25.8	51.3	14.4	1.8
		32.5			16.2	
子どもたちの感じ	校長	6.9	62.7	27.7	2.7	0
		69.6			2.7	
	父親	5.6	23.9	58.3	11.5	0.7
		29.5			12.2	
	母親	4.3	24.5	54.3	14.9	2.0
		28.8			16.9	
子どもたちへの先生の接し方	校長	3.6	53.6	39.0	3.8	0
		57.2			3.8	
	父親	5.0	17.2	50.8	23.6	3.4
		22.2			27.0	
	母親	2.9	14.3	49.1	30.0	3.7
		17.2			33.7	
先生方の教育へ取り組み姿勢	校長	8.7	53.9	32.9	4.5	0
		62.6			4.5	
	父親	4.4	17.4	49.3	25.0	3.9
		21.8			28.9	
	母親	2.7	18.4	47.1	27.1	4.7
		21.1			31.8	

○ = 最大値

表10 勉強観 (母親との対比)

—母親と微妙なずれも—

		その通り			半 分 半 分	違 う		
		まったく	かなり	やや		やや	かなり	まったく
成績の良し悪しは予・ 復習の努力に比例する	校長	5.3	42.7	33.8	12.0	4.7	1.1	0.4
		48.0			(50.5)	1.5		
成績のよさは予・ 復習の努力に比例する	校長	24.2	39.8	23.0	9.9	1.6	0.7	0.8
		(64.0)			34.5	1.5		
きちんと勉強していれば 望みの学校へ入れる	校長	4.2	27.5	31.7	19.1	12.4	4.9	0.2
		31.7			(63.2)	5.1		
小学校時代の成績は大学 入試に通じる	校長	8.3	18.9	20.8	24.1	14.4	7.8	5.7
		27.2			(59.3)	13.5		
小学校時代の成績は大学 入試に通じる	校長	0.2	14.0	29.4	28.4	15.8	10.0	2.2
		14.2			(73.6)	12.2		
小学校時代の成績は大学 入試に通じる	校長	2.0	9.2	16.8	33.8	17.0	11.6	9.6
		11.2			(67.6)	21.2		

○=最大値

図7 塾通いの背景(母親との対比)

—親たちの学校離れ—

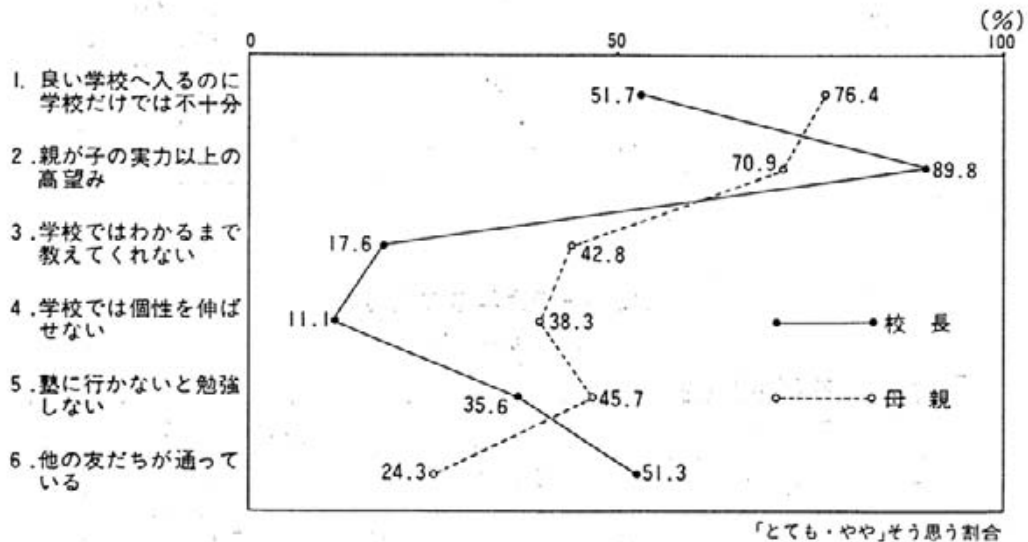


表11 塾通いの背景(母親との対比)

(%)

		そ う 思 う		半分半分	そう思わない	
		とても	や や		あまり	まったく
良い学校へ入るのに学校だけでは不十分	校長	8.5	43.2	20.7	22.0	5.6
	母親	43.0	33.4		4.4	4.8
		51.7			27.6	
		76.4		14.4	9.2	
親が子の実力以上の高望み	校長	30.2	59.6	6.9	2.9	0.4
	母親	37.0	33.9		7.2	6.5
		89.8			3.3	
		70.9		15.4	13.7	
学校ではわかるまで教えてくれない	校長	0.7	16.9	21.8	55.3	5.3
	母親	18.7	24.1		12.5	18.4
		17.6			60.6	
		42.8		26.3	30.9	
学校では個性を伸ばせない	校長	0.2	10.9	29.9	49.2	9.8
	母親	12.7	25.6		14.2	22.4
		11.1			59.0	
		38.3		25.1	36.6	
塾に行かないと勉強しない	校長	2.0	33.6	25.7	30.4	8.3
	母親	12.5	33.2		10.2	16.3
		35.6			38.7	
		45.7		27.8	26.5	
他の友だちが通っている	校長	5.6	45.7	28.4	17.6	2.7
	母親	5.8	18.5		17.6	35.0
		51.3			20.3	
		24.3		23.1	52.6	

○ = 最大値

表12 一流大学卒の値打ち

— やや下がりぎみ —

子どもたちが大学を出るころ

(%)

値打ちがでる			いまと 変わらない	値打ちが下がる		
いまよりぐんと	かなり	やや		やや	かなり	ぜんぜん
0.2	3.1	3.1	36.6	39.2	17.1	0.7
6.4				57.0		

○ = 最大値

### 3. 教職についての考え方

校長先生方はすでにふれた通り、教職一途の生活を送ってきた。それだけに教職については、一般社会の人と違った、そして、それなりのアングルをもった教職観をもっているのであろう。

まず、「貴校の先生方は、以下のようなことをどれほどなさっていると思いますか」について、図8のように答えている。

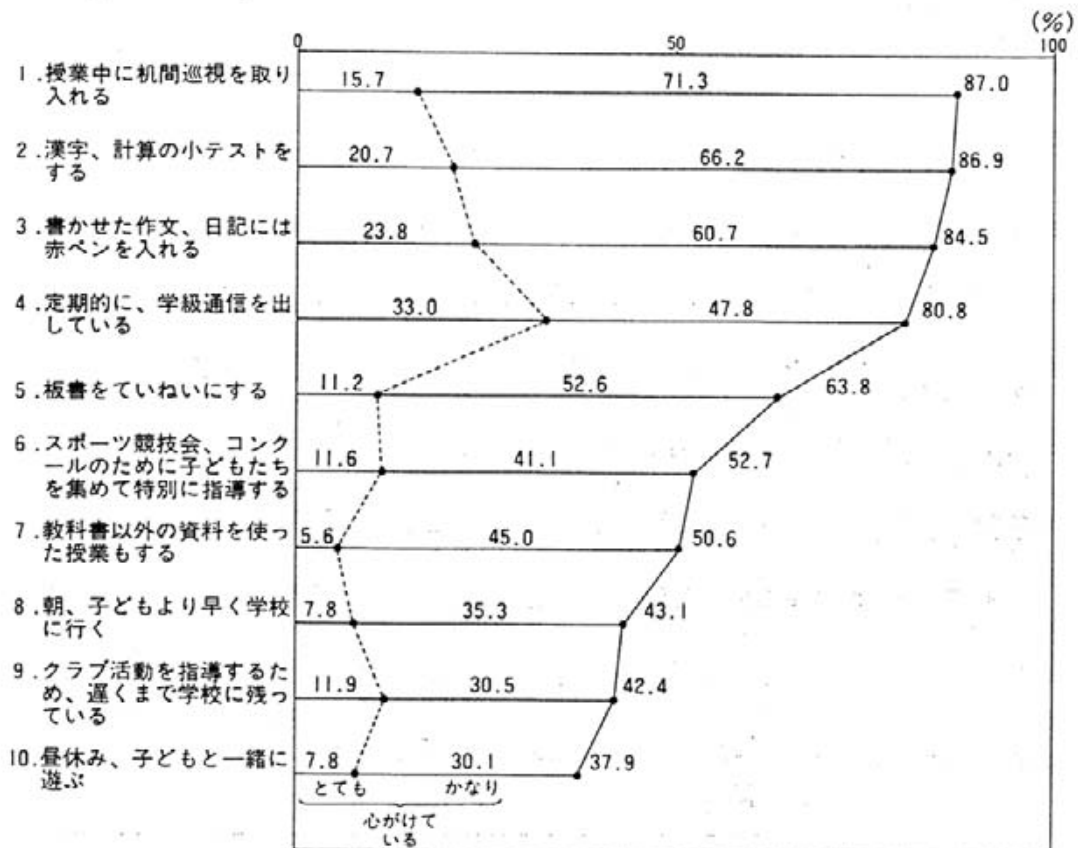
「昼休みに子どもと一緒に遊んでいる」や「朝、子どもより早く登校する」教師は多い

とはいえない。しかし、机間巡視をしたり、学級通信を出したりして、きめ細やかな学級指導をしている教師は多いという評価である。

教師たちをみていて、授業への取り組みについてはほぼ満足できる。しかし、もう一步努力して、休み時間などに、子どもの相手になってくれれば申し分がないというのであろう。したがって、「次のことを、先生はどう感じているか」について図9のように評価している。

図8 先生は心がけているか

—まじめに授業に取り組んでいる—



「子どもが好きになれない」や「学級がバラバラでまとまらない」などと悩んでいる教師は少ないだろう。しかし「忙しすぎて、学級の子どもと接する時間がない」と思っている教師は多いという見方である。

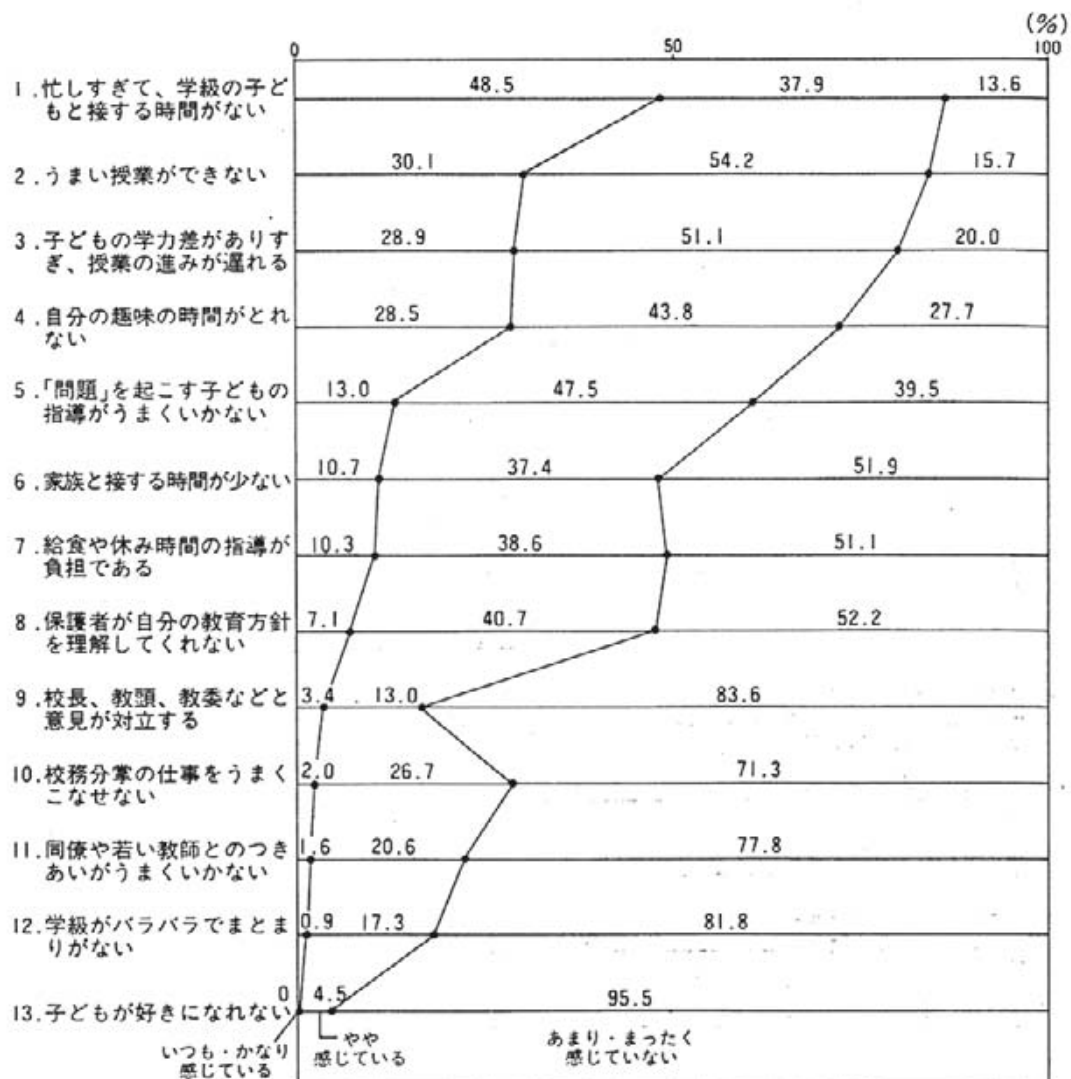
教師たちと話していると、忙しくてと言われることが多いが、校長先生のこうした教師

観はほぼ妥当なものであろう。

教師論の中で中枢を占めているのは、教職をどう位置づけるかの議論であろう。校長先生方は、「教師として格好がつくようになる」には、ほぼ4～5年はかかる(表13)。そして、「一人前の教師になる」には10年近い歳月が必要だろうという(表14)。

図9 先生の見方

—忙しすぎて、子どもと接する時間がない—





こうした教師についての見方は、参考までに示した教師自身の見通しとも一致している。すでにふれたように、教育についての見方について、親たちとの間には微妙な開きが認められた。しかし、教職についての感じ方については、さすがに教師の見方とほぼ一致している。

なお、教職の現状、近い将来の可能性、そして、望ましい方向について、図10(表15)のように答えている。現状は「専門職を目指しているセミ専門職」であろうが、近い将来、「専門職の地位の確立した専門職」になると思われ、そうなるのが望ましいという教職観である。

現状はともあれ、専門職化への道が教職の理想像という見方は、校長先生方の中でほぼ一致している印象を受ける。教職にたずさわ

ってきた境地在、専門職化への願いなのであろうか。

そして、それなら具体的にどうすることが専門職化につながるかについて、表16のように答えている。なによりも「授業の仕方を研究する」、そして「教育についての見方を深める」「教材研究を深める」ことが必要だという。

このところ、教師の視野の狭さが問題になることが多い。教室の中で、子どもをみつめる生活を送っているのだから、教えることに関心が集中して、子どもへの理解が遅れがちだという。そうした反省をふまえると、もう少し子どもへの理解が上位を占めてよいのと思うが、残念ながらそうした必要性を感じている校長先生は、2割弱にとどまっていた。

表13 まがりなりにも教師として格好がつくまで

— 4～5年はかかる —

	大学を出てすぐに	3か月後	半年後	1年後	2～3年後	4～5年後	7～8年後	10年以上たって
校長	0	0.2	1.1	8.0	32.9	46.0	8.7	3.1
	9.3						11.8	
(32) 教師	0.3	0.3	1.3	6.0	28.5	42.2	13.4	8.0
	7.9						21.4	

○ = 最大値

表14 一人前の教師になるための年数

— 10年くらいいたら —

	大学を出てすぐに	5～6年後	2～3年後	4～5年後	7～8年後	10年後	もっともったって
校長	0	0.4	8.0	34.6	25.9	28.2	2.9
	8.4						
教師	0.3	1.3	7.7	24.2	23.5	34.9	8.1
	9.3						

図10 教職の現状と未来  
——専門職を目指して——

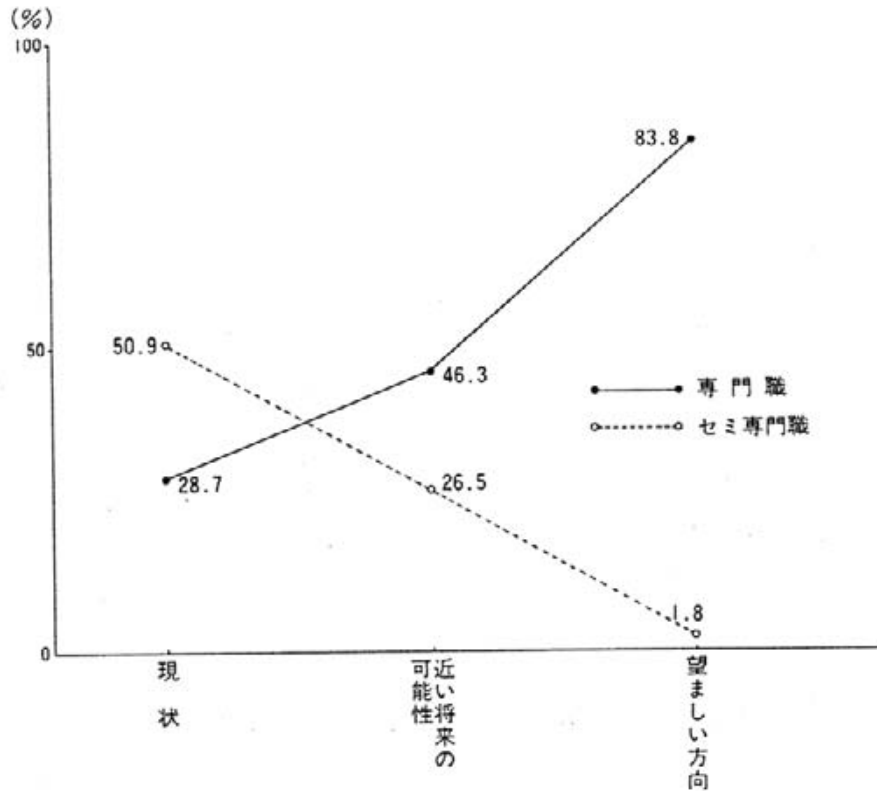


表15 教職の現状と未来  
——専門職へ強い願望——

(%)

職業	現 状		近い将来の可能性		望ましい方向	
	校長	教師	校長	教師	校長	教師
専門職を目指している セミ専門職	50.9	55.1	26.5	23.0	1.8	4.4
専門職の地位の確立し た専門職	28.7	15.1	46.3	32.1	83.8	80.7
会社員と同じようなサ ラリーマン	7.3	10.1	12.5	17.2	0	0.7
聖職者としての性格の 強い職業	10.0	7.0	4.5	7.4	13.8	11.8
賃金をもらう労働者	0.9	6.7	1.3	6.8	0.2	1.0
教育技術売りものに する教育技術者	2.2	6.0	8.9	13.5	0.4	1.4

○ = 最大値

表16 専門職化への道  
—授業のレベルアップを—

(%)

	とても必要	かなり必要	ある程度必要	やや必要	あまり必要でない	ぜんぜん必要でない	1項目選択	教師の反応
1. 授業の仕方を研究する	52.9	39.3	7.1	0.7	0	0	28.5	14.5
2. 教育についての見方を深める	43.0	47.0	9.6	0.2	0.2	0	27.5	28.5
3. 教材研究を深める	57.6	39.1	2.2	1.1	0	0	15.8	20.9
4. 人柄を魅力的にする	38.6	41.1	18.1	2.0	0.2	0	11.8	7.1
5. 子どもの心理を研究する	49.2	45.7	4.7	0.4	0	0	10.9	16.5
6. 学級集団をリードする技術を高める	28.8	50.9	19.0	1.3	0	0	3.3	5.4
7. 一般的な教養を深める	22.5	51.9	22.5	3.1	0	0	1.8	4.4
8. 社会についての見方を深める	19.2	51.0	26.9	2.7	0.2	0	0.4	2.7

## ((( まとめに代えて )))

教職一筋に4分の1世紀を超える生活を送ってきた。文字通り、戦後の教育を担ってきた方たちなのであろう。それだけに、教育についての見方は納得できるものが多い。しかし、親たちの学校批判に気づいていない方たちも少なくない。それと、授業中心に専門職化を考える教師論も、やや古典的な印象を受ける。

筆者の知人にも校長先生が多いが、そうした方たちに共通しているのは、教育を大事に

考え、まじめに努力している態度である。しかし、残念ながら、視野がやや狭い印象を受ける。そして、この調査結果でもそうした結果が認められた。それだけに、これから管理職につく方たちは、もう少し学校の門から外へ進出し、広い視野で教育をつかむ努力を重ねてほしいと思った。親たちの間に入っていて、話を聞き、さまざまな人と出会う。そうした視野の広さが、これからの管理職に望まれる資質なのであろう。

## アンケート調査のお願い

### 各学校長殿

私どもは、これまでさまざまな角度から子どもたちの心の内を探る調査を実施し、その結果を『モノグラフ・小学生ナウ』の形で発表してまいりました。それと平行して学校のあり方も考える意味で、運動会、入学式、掃除、修学旅行などの全国調査を実施してまいりました。

今回、通知表（通信簿）について考えてみたいと思い、通知表を全国的に集めたく存じます。ご多忙中のところ誠に申し訳ございませんが、通知表（コピーしたものでも結構です）をお送りいただけませんか。また、通知表に関連して、評価について学校としての取り決め（覚え書き）がございましたら、お送りいただけると幸いです。

なお、校長として常日頃、学校現場を預っておられる先生方のご苦勞やご意見をうかがいたいと考え、短いアンケートも同封させていただきました。（ご協力いただいたこと、ご迷惑をおかけすることはございません）

同封の返信用封筒に、以下のものを入れてご返送していただければ幸いです。

- ① 貴校の通知表（学年に分かれていれば、それぞれお願いします）
- ② 通知表の記入などにあたっての評価についての取り決め（そうした書類でもありましたら、よろしくお願いします）
- ③ アンケート用紙

なお、返信用封筒に封入できない資料は、お手数ですが封筒をご用意のうえ、別便にてお送りください。ご負担いただいた切手代は後ほどお返しいたします。

昭和62年4月

放送大学教授 深谷昌志

### 〈記入のしかた〉

（例）あなたは、月に何冊くらいの本を読みますか？

ほとんど読まない    1～3冊    4～5冊    それ以上  
（もし3冊くらいだったら）    1 ————— ② ————— 3 ————— 4

① 校長として仕事をしていくには、さまざまな面での意志の疎通が必要になってくると思いますが、それぞれの面でのコミュニケーションはうまくいっていますか。

	とても 苦労して いる	かなり 苦労して いる	やや 苦労して いる	あまり 苦労して いない	まったく 苦労して いない
1) 先生方との意志の疎通	0.2	3.4	21.3	63.0	12.1 (%)
2) PTAとの意志の疎通	0	2.9	20.7	64.0	12.4
3) 教育委員会との意志の疎通	0	2.3	11.7	68.4	17.6
4) 地元の地域との意志の疎通	0.2	3.2	23.9	64.1	8.6
5) 子どもたちとの意志の疎通	0.2	2.0	12.6	64.5	20.7
6) 教頭や教務主任との意志の疎通	0	0.9	7.9	54.6	36.6

② 校長としてのあなたの時間を10としたとき、1)~6)にどれくらいの割合で時間を使っている感じですか。

	平均値
1) 先生方との意志の疎通	2.45
2) PTAとの意志の疎通	1.33
3) 教育委員会との意志の疎通	1.08
4) 地元の地域との意志の疎通	1.36
5) 子どもたちとの意志の疎通	2.00
6) 教頭や教務主任との意志の疎通	2.27

(1)~6)のトータルを10とした場合、それぞれにどれくらい力を注ぐのかを3あるいは5、1のようにご記入ください。

③ 子どもたちは、以下のようなことをどれくらい先生たちに望んでいるとお考えですか。

	とても 望んで いる	かなり 望んで いる	やや 望んで いる	やや 望んで いない	あまり 望んで いない	ぜんぜん 望んで いない
1) 人間として信頼できる	40.7	44.6	13.6	0	0.9	0.2 (%)
2) ユーモアがある	22.0	56.4	19.8	0.9	0.9	0
3) 教え方がうまい	41.3	46.0	11.1	0.9	0.7	0

● 資料1 調査票見本および集計表

	とても 望んで いる	かなり 望んで いる	やや 望んで いる	やや 望んで いない	あまり 望んで いない	ぜんぜん 望んで いない
4) 熱心に授業をする……	34.5	51.6	12.6	1.1	0.2	0
5) 人間として尊敬できる……	30.2	48.6	19.7	1.1	0.4	0
6) 教える内容がしっかり している……	27.7	49.7	20.6	1.1	0.9	0

④ 貴校の先生方は、以下のようなことをどれくらいなさっているとお考えですか。

	とても 心がけて いる	かなり 心がけて いる	少し 心がけて いる	あまり 心がけて いない	まったく 心がけて いない
1) 授業中に机間巡視を取り入れる……	15.7	71.3	11.9	1.1	0 (%)
2) 漢字、計算の小テストをする……	20.7	66.2	11.6	1.3	0.2
3) 板書をていねいにする……	11.2	52.6	34.2	2.0	0
4) 昼休み、子どもと一緒に遊ぶ……	7.8	30.1	43.6	18.1	0.4
5) 朝、子どもより早く学校に行く……	7.8	35.3	39.1	16.5	1.3
6) 教科書以外の資料を使った授業 もする……	5.6	45.0	42.5	6.7	0.2
7) クラブ活動を指導するため、遅 くまで学校に残っている……	11.9	30.5	33.3	21.8	2.5
8) 定期的に、学級通信を出してい る……	33.0	47.8	16.1	2.9	0.2
9) 書かせた作文、日記には赤ペン を入れる……	23.8	60.7	14.9	0.4	0.2
10) スポーツ競技会、コンクールの ために子どもたちを集めて特別 に指導する……	11.6	41.1	32.4	12.9	2.0

⑤ 貴校の先生方は、つぎのようなことをどれくらい感じているとお考えですか。

	いつも 感じている	かなり 感じている	やや 感じている	あまり 感じていない	まったく 感じていない
1) 忙しすぎて、学級の子どもと 接する時間がない……	5.4	43.1	37.9	12.9	0.7 (%)
2) 給食や休み時間の指導が負担で ある……	0.9	9.4	38.6	48.0	3.1

	いつも 感じている	かなり 感じている	やや 感じている	あまり 感じていない	まったく 感じていない
3) 同僚や若い教師とのつきあいがうまくいかない……………	0	1.6	20.6	66.2	11.6
4) 自分の趣味の時間がとれない……………	3.6	24.9	43.8	26.1	1.6
5) うまい授業ができない……………	2.7	27.4	54.2	15.3	0.4
6) 保護者が自分の教育方針を理解してくれない……………	0.4	6.7	40.7	49.5	2.7
7) 「問題」を起こす子どもの指導がうまくいかない……………	0.4	12.6	47.5	35.7	3.8
8) 子どもの学力差がありすぎ、授業の進みが遅れる……………	4.0	24.9	51.1	19.1	0.9
9) 子どもが好きになれない……………	0	0	4.5	67.9	27.6
10) 校長、教頭、教委などと意見が対立する……………	0.7	2.7	13.0	62.3	21.3
11) 学級がバラバラでまとまりがない……………	0	0.9	17.3	64.3	17.5
12) 校務分掌の仕事をうまくこなせない……………	0	2.0	26.7	63.0	8.3
13) 家族と接する時間が少ない……………	0.2	10.5	37.4	47.2	4.7

⑥ つぎの1)から6)までに、子どもたちに身につけてほしいさまざまな力や態度が書いてあります。それらは、学校を通して身につけることができるとお考えになりますか。

	学校を通して 十分身につける ことができる	ある程度身に つけることが できる	なんとも いえない	あまり身に つけることが できない	ぜんぜん身に つけることは できない
1) 算数や国語の学力……………	45.6	53.5	0.7	0.2	0 (%)
2) 基礎的な体力……………	16.8	73.1	8.8	1.3	0
3) 豊かな情操……………	8.2	77.0	12.4	2.4	0
4) 基礎的な生活習慣……………	3.5	62.0	24.1	10.4	0
5) やる気やがんばりぬく力……………	11.9	71.3	14.4	2.4	0
6) 友だちとつきあう態度……………	15.3	73.2	11.1	0.4	0

● 資料1 調査票見本および集計表

- ⑦ つぎの1)から6)までの力は、社会のどこで身につけるのが望ましいとお考えになりますか。

1)の学力を、学校で全部つけたほうがよいとお思いでしたら、例(a)のように、10、0、0、0、また、学校で7割、家庭で1割、学習塾で2割でしたら、例(b)のように、7、1、2、0となります。全部で10(割)になるように①～④に数値をお入れください。

	① 学 校	② 家 庭	③ 学 習 塾 や お け い こ	④ 地 域 ・ 社 会 の 中 で
記入例 (a)	10	0	0	0
記入例 (b)	7	1	2	0
1) 算数や国語の学力	9.0	0.6	0.3	0.1
2) 基礎的な体力	6.0	2.8	0.1	1.1
3) 豊かな情操	5.0	4.1	0.1	0.8
4) 基礎的な生活習慣	3.5	5.6	0.1	0.8
5) やる気やがんばりぬく力	4.7	4.0	0.2	1.1
6) 友だちとつきあう態度	4.9	3.2	0.2	1.7

(图中的数値は全体を10.0とした時の割合)

- ⑧ 教育についてのあなたのお考えをおたずねします。つぎのような意見を、あなたはどのように感じになりますか。

	まったく その 通り	かなり その 通り	やや その 通り	半分 半分	やや 違う	かなり 違う	まったく 違う	(%)
1) 学業成績の良し(悪し)は、予習や復習などの努力に比例する……………	5.3	42.7	33.8	12.0	4.7	1.1	0.4	(%)
2) 小学校時代の学業成績の良さは、いわゆる一流大学への入学に通じる……………	0.2	14.0	29.4	28.4	15.8	10.0	2.2	
3) 授業をまじめに聞き、予習や復習をきちんとしていれば、望みの学校へ入れる……………	4.2	27.5	31.7	19.1	12.4	4.9	0.2	



⑨ 小学生の中で、塾通いをする子どもがふえていると言われています。塾通いがふえる理由は何だと思いですか。

	とても そう 思う	やや そう思う	半分 半分	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない
1) 学校では、よくわかるまで勉強を 教えてくれないから……	0.7	16.9	21.8	55.3	5.3 (%)
2) 親が、子どもの実力以上の高望 みをした進学を考えるから……	30.2	59.6	6.9	2.9	0.4
3) 塾に行かないと、勉強をしない から……	2.0	33.6	25.7	30.4	8.3
4) 良い高校や私立中へ入るために は、学校の教育だけでは不十分 だと思うから……	8.5	43.2	20.7	22.0	5.6
5) 他の友だちが通っているので、 そのつきあいの意味もあって……	5.6	45.7	28.4	17.6	2.7
6) 学校では、子どもの個性に合っ た教え方をしてくれないから……	0.2	10.9	29.9	49.2	9.8

⑩ いわゆる一流大学卒業という肩書きの値打ちは、現在担任している子どもたちが大学を出るころ、どうなっていると思いますか。

子どもたちが大学を出るころ						
いまよりくんと 値打ちが でる	かなり 値打ちが でる	やや 値打ちが でる	いまと 変わらない	やや 値打ちが 下がる	かなり 値打ちが 下がる	ぜんぜん 値打ちが なくなる
0.2	3.1	3.1	36.6	39.2	17.1	0.7 (%)

⑪ つぎの6項目について、子どもたちに身につけてもらいたいものから順に、1、2、……6と番号をつけてください。

1) 成績のよさ	<input type="text"/>	2.2	4) 友だちから好かれること	<input type="text"/>	3.5 (%)
2) じょうぶな体力	<input type="text"/>	34.2	5) やる気	<input type="text"/>	36.0
3) 先生からの信頼性	<input type="text"/>	0.2	6) しっかりした生活習慣	<input type="text"/>	22.3

(数値は1位をつけた割合)

⑫ 親たちは貴校について、どう思っているとお感じですか。

	とても満足している	かなり満足している	やや満足している	あまり満足していない	ぜんぜん満足していない
1) 学校の雰囲気	7.8	62.9	26.8	2.5	0 (%)
2) 子どもたちの感じ	6.9	62.7	27.7	2.7	0
3) 子どもたちへの先生の接し方	3.6	53.6	39.0	3.8	0
4) 先生方の教育へ取り組む姿勢	8.7	53.9	32.9	4.5	0
5) 学校の設備や施設	7.2	30.2	34.9	25.7	2.0

⑬ つぎに、教職についてのお考えをおききします。

1) 個人差があると思いますが、まがりなりにも「教師として格好がつく」までには、大学を出てからどれくらいの教職経験が必要だとお思いですか。

大学を出てすぐに	3か月後	半年後	1年後	2～3年後	4～5年後	7～8年後	10年以上たって
0	0.2	1.1	8.0	32.9	46.0	8.7	3.1 (%)

2) それでは、これも個人差があると思いますが、いろいろの面で「一人前の教師」になるには、大学を出てから何年くらいの教職経験が必要だとお思いですか。

大学を出てすぐに	1年後	2～3年後	4～5年後	7～8年後	10年後	もっとたってから
0	0.4	8.0	34.6	25.9	28.2	2.9 (%)

3) 先生方をごらんになって、教職の現状は1～6のどれに近いとお考えですか。

(○を1つつけてください)

		(%)
1. 賃金をもらう労働者	0.9	
2. 聖職者としての性格の強い職業	10.0	
3. 専門職としての地位の確立した専門職	28.7	
4. 教育技術売りものにする教育技術者	2.2	
5. 会社員と同じようなサラリーマン	7.3	
6. 専門職を目指してはいるがセミ専門職	50.9	

4) それでは、今後教職がどの方向に進むのが望ましいとお考えですか。1～6の中から1つを選んでお答えください。

		(%)
1. 賃金をもらう労働者	0.2	4. 教育技術売りものにする教育技術者 0.4
2. 聖職者としての性格の強い職業	13.8	5. 会社員と同じようなサラリーマン 0
3. 専門職としての地位の確立した専門職	83.8	6. 専門職を目指してはいるがセミ専門職 1.8

5) 実際問題として、近い将来、教職はどの方向へ進む可能性が強いとお考えですか。

		(%)
1. 賃金をもらう労働者	1.3	4. 教育技術売りものにする教育技術者 8.9
2. 聖職者としての性格の強い職業	4.5	5. 会社員と同じようなサラリーマン 12.5
3. 専門職としての地位の確立した専門職	46.3	6. 専門職を目指してはいるがセミ専門職 26.5

6) 教師の生活を以下のように分けた場合、教職が専門職化していくために、つぎのようなことがどれくらい必要だとお考えですか。

	とても必要	かなり必要	ある程度必要	やや必要	あまり必要でない	ぜんぜん必要でない	(%)
① 教材研究を深める	57.6	39.1	2.2	1.1	0	0	
② 子どもの心理を研究する	49.2	45.7	4.7	0.4	0	0	
③ 授業の仕方を研究する	52.9	39.3	7.1	0.7	0	0	
④ 一般的な教養を深める	22.5	51.9	22.5	3.1	0	0	
⑤ 教育についての見方を深める	43.0	47.0	9.6	0.2	0.2	0	
⑥ 学級集団をリードする技術を高める	28.8	50.9	19.0	1.3	0	0	
⑦ 社会についての見方を深める	19.2	51.0	26.9	2.7	0.2	0	
⑧ 人柄を魅力的にする	38.6	41.1	18.1	2.0	0.2	0	

①～⑧の中で1つを選ぶとするなら、専門職化するのに、どれがもっとも必要ですか。

- ① = 15.8
- ② = 10.9
- ③ = 28.5
- ④ = 1.8
- ⑤ = 27.5
- ⑥ = 3.3
- ⑦ = 0.4
- ⑧ = 11.8

● 資料1 調査票見本および集計表

7) それでは、教職を専門職と考えた場合、貴校の先生方をごらんになって、①～⑧までのことを先生方は平均してどれくらい身につけているとお思いですか。

	すでに 十分に ついている	かなり 身に ついている	やや 身に ついている	やや 不十分	かなり 不十分	とても 不十分
① 教材研究を深める……………	1.4	48.6	44.9	4.7	0.4	0 (%)
② 子どもの心理を研究する……………	0.7	35.7	50.9	12.1	0.4	0.2
③ 授業の仕方を研究する……………	0.4	17.8	57.8	22.5	1.3	0.2
④ 一般的な教養を深める……………	1.3	41.2	45.9	9.4	2.0	0.2
⑤ 教育についての見方を深める……	0.2	11.2	52.5	33.9	2.0	0.2
⑥ 学級集団をリードする技術を高 める……………	0.4	15.7	52.3	28.9	2.7	0
⑦ 社会についての見方を深める……	0.4	21.5	60.4	16.4	1.3	0
⑧ 人柄を魅力的にする……………	0.7	17.4	51.3	26.8	3.6	0.2

14 あなたご自身のことをおたずねします。

1) あなたの性別 (1. 男 2. 女)  
97.3 2.7

2) あなたの専門 (もっとも得意なものに○をつけてください)

									(%)		
国語	17.5	算数	13.2	理科	20.5	社会	20.0	体育	7.5	音楽	3.6
図工	3.4	家庭科	0.9	特活	3.2	生活指導	2.7	学校経営	7.5		

その他 ( )

3) あなたが教職についた時のお気持ちをお教えてください。

とても 積極的 だった	かなり 積極的 だった	やや 積極的 だった	ふつう だった	やや 消極的 だった	かなり 消極的 だった	とても 消極的 だった
22.0	35.3	20.0	16.7	3.6	2.4	0 (%)

4) 今までに教職をやめたいとお考えになったことがありましたか。

1回も ない	1~2回 あった	数回 あった	いつも そう 思っている
44.0	37.3	17.4	1.3 (%)

5) もう一度人生をやり直せるとしたら、教師としての道を志されますか。

ぜひ つきたい	かなり つきたい	やや つきたい	なんとも いえない	やや つきたく ない	あまり つきたく ない	ぜんぜん つきたく ない
29.4	30.0	8.4	25.4	2.4	2.9	1.5 (%)

6) あなたが教職についてから満何年になりましたか。

(平均)  
満 ( 36.3 ) 年

7) 教頭になられたのは満何歳の時でしたか。

満 ( 50.0 ) 歳

8) それでは、校長になられたのは満何歳の時でしたか。

満 ( 54.8 ) 歳

9) あなたの学校の規模をお知らせください。

1. 児童数 ( 272 ) 名

2. 学級数 ( 9.5 ) 学級

——— これで終わりです。長い間どうもありがとうございました。 ———